

第一回 神奈川地方会 活動報告

開催日時 平成 28 年 5 月 21 日（土） 14：00～17：10

会場 厚木商工会議所 101 会議室

平成 28 年 5 月 21 日（土）厚木商工会議所 101 会議室において、第一回 神奈川地方会を開催いたしました。「医師事務作業補助者のボトムアップについて～一緒に考えましょう！」をテーマに、神奈川県、東京都、他県より 54 施設、109 名の方にご参加いただきました。



始めに東名厚木病院院長 山下巖先生より、開会のご挨拶をいただきました。ご参加者の人数に、正直驚かれたそうですが、皆様の今後の業務への取り組み、スキルアップを期待しておりますとのお言葉をいただきました。



講演 1 では、金沢脳神経外科病院院長 佐藤秀次先生より「医療の現場を変える医師事務作業補助者の活用」と題してご講演をいただきました。今後の日本における人口や高齢化、医療費増大の問題と併せ、医療の変革期における医師事務作業補助者の立場や役割を、当該業務従事者に必要な能力の五角形を用いてご説明いただきました。そして、「書類の代行作成にとどまらず、現場のコーディネーター、時には司令塔としての活躍をしてもいい頃ではないか。今後に期待しています。」とのお言葉をいただきました。

場面のコーディネーター、時には司令塔としての活躍をしてもいい頃ではないか。今後に期待しています。」とのお言葉をいただきました。

講演 2 では東名厚木病院副院長 日野浩司先生より「医師事務作業補助者に期待すること、物申すこと」と題してご講演いただきました。書類代行作成と、NCD入力業務には本当に助けられていますとのお言葉から始まり、宮城県気仙沼の災害活動支援活動に例え、医師事務作業補助者の業務にエールをいただきました。「今後、当該業務が更に多岐にわたり重要な部門になっていくであろう、それに見合う皆様の開拓精神、業務やシステムの構築や簡素化に、果敢に取り組んでください。」との「物申す」をいただきました。

休憩をはさんで、**講演 3** では、日本医師事務作業補助研究会 矢口智子理事長より「金沢脳神経外科病院における医師事務作業補助者業務及び医師事務作業補助者の現状と未来」と題してご講演をいただきました。前半では業務の様々な内容を詳細にご紹介いただき、会場の皆様も大いにご参考になられたかと存じます。また後半では、当該加算が導入されてから本年までの、段階を踏んだ診療報酬改定から見る業務に対する評価、その中で徐々に見えてきた様々な課題について、具体的な数字と共に挙げていただきました。



最後に 5 つの医療機関、総合高津中央病院、厚木市立病院、北里大学病院、東名厚木病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 による医師事務作業補助者の業務紹介を行いました。皆様の取り組みや努力を具体的にご提示いただき有意義な時間であったと、アンケートの結果からも伺えます。



しかし、会場の方からは「ご質問したいことがあった」と、また発表いただいた方からは「会場の皆様から直接のご意見をお聞きしたかった」と、ご指摘がございました。次回は質疑応答の時間を設けられるように、調整したいと思います。

「皆様の熱意を間近に感じることができました、今後は更なる発展を期待しております。」と、東名厚木病院 鈴木禎見事務部長より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに第一回神奈川地方会を終了することができました。

その後、同会場で行われた懇親会でも、皆様の意見交換やご挨拶等、活発な交流が行われておりました。

また、今後の指標や活動につなげていけるよう、アンケートの集計結果も併せてご覧いただければ幸いです。



最後になりましたが、今回の地方会にご参加いただいた皆様、また不慣れな私共に、準備段階からご協力いただいた皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

報告者 社会医療法人社団 三思会 東名厚木病院 結城 ゆずか